

令和四年度 会長就任の挨拶

昨年度に引き続き、皆様のご承認をいただき堺市PTA協議会 会長を務めさせていただきます吉原と申します。会長という重責を担う立場に不安もあります
が、精一杯務めたいと思います。何卒よろしくお願
い
します。

本協議会 会長としては二年目となりますが、昨年度の総会は書面形式で開催したため、皆様の前で所信表明をおこなうのは初めての機会となります。昨年度の就任の挨拶と一部重複した内容にはなりますが就任当初から私の基本方針は変わりません。ご存じの通りPTA組織のあり方について多方で議論されていることは周知の事実です。私自身もPTAのあり方について危機感を抱いている人間の一人です。その上で三

本の柱を軸に改革と良き伝統を守る本協議会にしたいと考えています。

一本目の柱は、“動員はおこなわない”。中央研修会などの大会に各学校園に何名必要だと要請するのはおかしいと感じています。よって、本協議会は案内の周知はします。しかし動員はおこないません。その代わり参加したくなるような中央研修会にするべく役員・評議員で企画いたします。動員しなくても来なくなるような研修会が最終目標です。

二本目は”現実を直視します”。今こうしている間にも不登校やいじめの問題で心を痛めてるPTA会員（保護者）の方がいます。我々PTAに関わる人間は、ただ楽しいことだけをみていいのでしょうか。この問題に真正面から目を向けるといふことはボラン

ティアの範囲を超える労力が発生するかもしれない。しかし、私は一人でも多くの人に寄り添いたいと考えています。それこそが本協議会の存在意義ではないでしょうか。

三本目は、“企業連携を深め経済的メリットを還元する”。今年度、本協議会は堺市が推進する“さかいSDGs推進プラットフォーム”に参画しました。すでにSDGs推進企業と交渉も開始いたしております。本協議会会員様に向けて経済的メリットがだせる協議会になり、会員様にとって必要な協議会に変革することが目標です。以上がω本の柱となります。

改革だけでなく、一方でPTAの強みである繋がりも大事にしたいと考えています。コロナ禍以前と今では価値観が変わったと多くの方が感じているかと存

じます。私自身、今まで当たり前前のように”集って、会って、話して“という活動が難しくなり子どもの孤立化また保護者の孤立化が一層進んでいるように思っています。人と会って話す事がこんなに貴重な時間だったということを感じた次第です。コロナはもうなくならないかもしれません。なくならないのであれば、コロナは存在する前提で私たち PTA の活動もこの状況にあわせて変えていかないといけません。人は繋がって生きる生き物です。だから、特に孤立化は避けなければなりません。親という大木を決して孤立させてはいけないのです。そのためには学校を中心とした地域、保護者、教職員のみなさま、そして子どもたちの輪が必要です。未曾有の事態に陥った今だからこそ”PTA の繋がる力”を再認識するべきではないでしょうか。今までの当たり前前が当たり前前ではない時代。今年、私たちは堺市の PTA であるという

共通の時間を共に過ごします。大変な時代かもしれませんが、先行き不透明な時代かもしれませんが、はたまた薔薇色の時代がくるかもしれません。どんな状況になっても保護者である私たちが笑い、ひいては子どもたちの笑顔につながる良い環境を皆さんと構築したいと願っています。

結びになりますが、コロナ禍で堺市PTA協議会として何ができるかを役員・評議員の皆様と共に考えていきたいとおもいます。まずは“見える堺市”を目指して取り組んで参ります。ご支援、ご協力をお願い申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

令和四年度 堺市PTA協議会 会長 吉原極